

GF ジェンダーフォーラム 通信

GENDER FORUM PRESS

女とは? 男とは? 考えるマガジン

和光大学 ジェンダーフォーラム 〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044-989-7777 内線4112

PERFORMANCE

口演会

女性講談の宝井琴桜さんが口演!

『山下さんちの物語—ジェンダーからの出発』

6月2日(水)、女性講談の宝井琴桜さんを招き口演会を催しました。「コトザクラではございません、キンオウと申します。パパン パンパンッ!」と笑わせ、張り扇で調子を整えながらはじまったこの日の演目は、琴桜さんの創作講談『山下さんちの物語—ジェンダーからの出発』です。

主人公は、会社勤めと家庭生活の両立を実践する山下家のけい子さん。勤め先の人間関係や家庭でのさまざまな問題を抱えながらも、いつもそれらに正面から向き合い、明日のしなやかな男女共生の社会を目指しています。育児休暇を取った夫のたけしさんも登場して、家事や介護、育児など身近な日常生活での出来事、職場の人たちとの摩擦などを織りこみながら、男女共同参画、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ワークライフバランスなどなど、いまホットでシビアなジェンダー問題を、笑いとユーモアで包みこんだストーリーに仕立て上げた講談でした。

琴桜さんは1969年に五代目宝井馬琴(ばきん)に弟子入りし、1975年には講談界初の女性の真打に昇格した講談師です。『平塚らいてう伝』や『与謝野晶子伝』など女性を取り上げた創作講談で知られ、「ジェンダー講談」と名づけて全国各地で口演活動をしています。『山下さんちの物語』は「講談の門を叩いたときは男ばかりの世界で、女には無理だと言われ非常にくやしい思いもしました。真打昇進のときは、自分の話芸にまだ自信がなく辞退しようかとも思いました。でも、努力すれば女も同じように評価されるという道すじを師匠が作ってくれたのです。私に続いてこの世界に入った女性たちのためにも本当に良かったと思っています。」と思いを語る琴桜さんの、修業時代の体験と重なって生まれた物語りだからこそ、分かりやすく説得力があるのだとうなづきました。



参加された学内外の多くのみなさんも、男女共同参画、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ワークライフバランスなど堅くなりがちなジェンダー問題を、時に笑い時には真剣に、あきることなく聞き入っていました。「張り扇でメリハリをつける語り口調が新鮮」「男女の問題がしみ砕いて盛り込まれ分かりやすかった」「風刺的な表現が面白く、笑いの中にも考えるべきこと多かった」「大きな流れの中でジェンダーが理解できた」との感想が寄せられ、このような催しの意味をあらためて認識しました。会場のE101教室は色鮮やかな二連の大垂れ幕が掛けられ、はなやいだ雰囲気の中での一時間を上回った熱演でした。琴桜さんの著書『張扇一筋—ジェンダー講談』がGFSの書棚にあります。一読をすすめます。(柘 光紘・芸術学科)



インパクト東京による「女性のための護身法」セミナーを開催

今年秋にも「女子学生のための護身術講座」を開きます。

ジェンダーフォーラムでは、セルフディフェンス研修会の実績を多数もっているインパクト東京をお招きして、6月16日に、「女性のための護身法」セミナーを開催しました。

夜道をひとりで歩いている時、後ろから足音が聞こえただけで、ビクッとしてしまったり、電車の中で痴漢に遭っても、怖くてなかなか声を挙げられなかったりした経験をしたことのある女性は多いでしょう。いざという時に対応できるスキルも必要ですが、そうしたスキルを身につけることによって、ふだんから通勤・通学・アルバイトなど、さまざまな場で、安心して学生生活を送ることができるようになるという点で、このワークショップを企画しました。

当日はまず、自分の身は自分で守るという姿勢と心構えを、日頃から持つことが必要なことなどについてレクチャーしてもらった後、声の出し方、安全な姿勢や歩き方、周囲への警戒の仕方などについての実技指導を受けました。壁いっぱい鏡の前に歩いたり、ポーズをとったりしたので、自分の歩き方や姿勢の弱点などが目に見え、効果的でした。

続いて、2人1組になって、手を掴まれたり、後ろから襲われたりした場合の対処法を、練習しました。やってみると、意外に簡単で、このセルフディフェンスのワザを身につければ、いざという時にも、相手の攻撃をかわして逃げ出せ

るなあと、実感できました。最後に、ロールプレイを通じて、性的被害、身近な人から受ける暴力、人間関係を脅かすさまざまな圧力を回避するスキルを学びました。

ワークショップ終了後、参加者の感想を聞いたところ、全員楽しかったと言っていました。アンケートをみても、参加者全員が「役に立つと思った」「他の学生にも勧めたい」と、満足度が高かったようです。普段は出さない大きな声を出したり、身体を動かしたりしたので、ストレス解消にもなったようです。講習後の会場は、自信に満ちた参加者たちの笑顔で溢れていました。

参加者たちから、護身法セミナーを今後も大学で開催すべきだとの声もあり、参加できなかった人たちからは、今回は授業の都合で参加できなかったので、ぜひこうした機会を再度つくって欲しいとの要望も出されています。こうした要望を受けて、本学空手道部の関根秀樹顧問、湯浅心師範、経済経営学部小林稔先生ほか、空手道部の協力を得て、10月から12月にかけて「女子学生のための護身術講座」を開催します。詳しくは、ジェンダーフォーラムまでお問い合わせください。

(井上輝子・現代社会学科)



「戦争と女性を考える」ワークショップ

ジェンダーフォーラムと共通教養科目「東南アジアのことばと文化」が共催で開きました。

戦争とは、男性中心社会の究極の縮図であると考えれば、女性への性的暴力と切り離せない現象といえるだろう。そうした問題は、過去の戦争にも現在の戦争にもしばしば現れている。だが、戦火が消えても被害側、加害側双方によってその内実は隠蔽され、伝わってこない場合が多い。

7月14日、ジェンダーフォーラムと共通教養科目「東南アジアのことばと文化」の共催で「戦争と女性を考えるワークショップ」が開催された。講師はフィリピン元「慰安婦」の支援・交流活動をしている〈ピナツボ復興むさしのネット=ピナツト¹⁾〉の出口雅子さん。ワークショップの軸は、第二次世界大戦中、フィリピン・レイテ島で日本軍による集団的レイプを受け「慰安婦」にさせられたレメディアス・フェリアスさんのストーリーである。

レメディアスさんは1942年14歳の時、レイテ島で日本兵に捕らえられ、駐屯地に連行されて性的奴隷にさせられた。その後、レイテを攻めた米軍に解放され家族のもとに戻された。戦後初めての結婚は「慰安婦」体験を理由に壊れたが、その後マニラへ移転、再婚して4人の子どもを生んだ。1994年66歳の時、レメディアスさんは地元の支援団体のあっせんで、隠していた戦争体験について人前で語り、そ

れを色鉛筆で描き出した。1999年には竹見智恵子さんがそのスケッチと解説を絵本にまとめて3つの言語で出版する²⁾。

ワークショップの冒頭、出口さんは60人の学生を男女半々の構成でグループに分け、各自に自分の14歳の時を思い出してもらった。絵本の中のそれぞれ別のスケッチが各班に配布され、受講者はその内容、登場人物、14歳の少女の思いについて話し合った。その後スケッチをスクリーンに投影しながら、出口さんはレメディアスさんの生い立ちを説明した。続いて「感情カード」が配られ、「悲しみ」「混乱」「尊敬」などのキーワードで各自が自らの気持ちを確認した。後半は、レメディアスさんの2001年の訪日記録ビデオを観て、①もし自分が当時の日本兵の立場にあったら、②レメディアスさんが自分の母親だったら、という二つの問いについて各班に討論してもらった。最後に受講者が感想文を書いて提出した。

「慰安婦」ということば自体をはじめて聞く学生もいた。数年前から日本の中学・高校の教科書から「慰安婦」問題についての記述が消えたからだ。学生たちの反応は様ざまだったが、ここでは二つの感想を紹介したい。

「もし自分が同じ立場だったら、というディスカッションで、女性は同性なので、やらないと否定的だったが、男性の意見は異なり、やってしまったかもしれないと言う。これは今も続いている日本の社会通念を語っていると思った。今の日本の社会で性的暴力に遭って苦しんでいる女性たちを助けるべきだ。レメディアスさんと共にできることを考えたい。そして、今、何がどこで起きているのかを知ることが一番大切だと思った。」

「なぜ慰安所というものが認められていたかは、男性が圧倒的優位である日本社会の悪習慣が関係している。その



犠牲者は、後々もその事実を隠し続け、バレルことに怯えながら生活することになる。その女性たちの一生を狂わせてしまうものだった。ビデオを見た時は、怒りと悲しみと無力感に襲われたが、レメディアスさんが涙ながらに悲しい事実を話している姿を見て勇気づけられたし、何か手助

けをしたいという気持ちになった。」

- 1) 本学現代人間学部のインターンシップ・プログラムの協力団体でもある。
- 2) レメディアス・フェリアス『もうひとつのレイテ戦—日本軍に捕らえられた少女の絵日記』(木犀社)。ジェンダーフリースペースにある。(ロバート・リケット・現代社会学科)

GF TOPICS

『生活力』育成プログラム!

ジェンダーフォーラムは、今年度、2010年度和光大学教育重点充実費を受け、「和光大学生のための『生活力』育成プログラム」という事業を展開しています。

昨今、マスメディアでは、大学生が身につけるべきさまざまな「力」が喧伝されています。たとえば文部科学省の提唱する「就業力」や経済産業省が掲げる「社会人基礎力」など、皆さんも聞いたことがあるのではないのでしょうか。このような趨勢を踏まえ、GFでは「生活力の育成」と銘打ち、学生生活を根本から支える3つのスキルを見つめ直すワークショップを開催することになりました。「食にかかわる生活力」「おカネにかかわる生活力」「尊重しあえるパートナーシップにかかわる生活力」という3つの「生活力」について、楽しく考えていく催しです。詳しくは学内のポスターで確認するか、ジェンダーフリースペースに来室し、お気軽にスタッフにお尋ねください。

(杉本昌昭・経営メディア学科)

ジェンダーフリースペースからのお知らせ

今年新しく購入した図書の中から3冊ご紹介しましょう。

①菅野文『オトメン 1～10号』白泉社

テレビドラマ化されたのでご存じの方も多はず。おとめチック男子達のラブコメディのコミックです。

②宝井琴桜『張扇一筋—ジェンダー講談』悠飛社刊

6月の口演会にお招きした講談師宝井琴桜さんの著書です。日本初の女性真打ちの講談師が誕生するまでが書かれていて興味深い内容です。

③レメディアス・フェリアス『もうひとつのレイテ戦—日本軍に捕らえられた少女の絵日記』木犀社発売

日本軍に捕らえられたフィリピンの一少女の話を絵本にしたものです。ほのぼのとした絵からは想像もできないような出来事が起こります。

GFSには、知る人ぞ知るコミック・コーナーがあり、ソファに座ってお茶を飲みながらゆっくり読書ができますよ! 一度覗いてみてください。(安河内みどり・GFスタッフ)

GFのスタッフになって

和光大学ジェンダーフリースペースのスタッフになり、数ヶ月が経ちました。これまで出会うことのなかった書籍やビデオに囲まれ、触れる機会のなかったイベントに携わり、新鮮で貴重な体験をしています。

ジェンダーフリースペースには、関連書籍はもちろん、ビデオや雑誌、過去の貴重な蔵書などがございます。最近では新刊漫画も入り、パソコンも用意しています。様々な方に広く開かれた、あらゆるニーズに対応できるスペースになるようスタッフ一同工夫しております。このようなスペースが一般に開放されていることは、非常に有意義なことではないでしょうか。

スタッフとして、皆さんにこの和光大学ジェンダーフリースペースを広く知っていただくため、知識をより深め、様々な情報を発信し、ジェンダーへの理解を広めていくお手伝いをできればと考えています。今後ともよろしくお願いたします。(鈴木裕美子・岡上在住)

本年度からGFのスタッフになり、先生方やスタッフの方々、GFSに訪れてくれる学生たちやイベント参加者のみなさんとの交流を通して、いくつかの催しを行なってきました。どれも貴重な体験であり、私自身イベントが終了してから考えさせられることの多いものばかりでした。

これまでの活動の中で気付いたことのひとつは、ジェンダーフォーラムの活動は、どれもゆるやかなテーマの連関のなかにある、ということ。イベントを経るごとに、ひしひしとその「流れ」が見えてきました。

学生である私の専門は中世日本の宗教思想で、時代的にも分野としても懸隔がありますが、私たちの生活に直接関わってくるようなアクチュアルな問題意識として、ジェンダーという学問が日々のなかに生きていることを感じます。勉強しつつ活動が行なえることは、この上なく面白い。

今後もGFSでのみなさんとの交流によって、たくさんの「きっかけ」を生むことができれば幸いです。ぜひGFSに足を運んでみてください。よろしくお願いたします。

(宮嶋隆介・総合文化学科4年)